

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						総事業費						
						当初	当初					
都市公園事業	505	亀山サンシャインパーク	亀山市	<p>【全体事業概要】 面積 14.2ha ウッドデッキ、遊歩道、芝生広場、キッズランド(大型遊具)、バーベキューランド、水の遊び場、ウォーターガーデン、駐車場等</p> <p>【事業目的】 (1) 当該箇所は東名阪自動車道、伊勢自動車道、新名神高速道路、国道1号、国道25号が交わる交通の要衝に位置し、ハイウェイオアシスとして、利用者に快適な休息空間を提供する。 (2) 北勢地域等の住民に、パーキングエリアとの一体化による利便性の高い行楽レクリエーション空間を提供する。 (3) 大阪圏や名古屋圏の住民等広域利用が見込まれる中で地域のイメージを高め活性化に資する。</p>	H15	4,141	<p>(1) 費用対効果分析結果 ・便益(B) 17,115百万円 ・費用(C) 7,528百万円 ・B/C 2.27 (2) ハイウェイオアシスとしての効果 ・近隣の亀山市、鈴鹿市などから、遠方の愛知県など、ハイウェイオアシスとして広域の利用が見られる。 ・散策、高速道路利用中の休憩、子どもの遊びなどの利用が見られる。 (3) 観光振興等地域活性化に関する効果 ・自然観察会や写真コンクール等、地域資源を活かした環境学習の開催や、移動動物園等の各種行事の開催を通じて観光振興に寄与している。 (4) 長寿・福祉社会への対応に関する効果 ・池沿いのデッキをスロープでつなぎ、誰もが水辺に近づけるよう配慮した他、バーベキューランド、便所などにおいてバリアフリーに対応したことにより、利用実態調査においても効果が確認できる。</p>	<p>(1) ため池、丘陵地環境及び景観の保全 ・高塚池とその周りの丘陵地の景観を保全。 ・利用実態調査でも、9割近くの人が「公園の自然環境の豊かさを感じる」と回答。</p>	<p>(1) 上位計画との整合 ・亀山都市計画区域マスタープランにおいては鈴鹿山麓と伊勢湾をつなぐ緑地ネットワークの一環として位置づけられており、ため池及び丘陵地に囲まれたレクリエーション空間づくり等、本公園の整備内容と一致している。 (2) 高速道路の低料金化 ・ETC割引など、高速道路が低料金で利用できるようになり、本公園は従来に比べより利用しやすくなると考えられる。 (3) 周辺観光施設の状況 ・周辺に閑宿(歴史を感じさせる街並、祭りなどの行事開催)、かめやま美術館(文化施設)、羽黒山(景勝地)などがあり、観光振興を図っている。これらの観光案内をハイウェイオアシスとして広域利用が見込める本公園で行い、地域活性化に寄与している。</p>	<p>(1) 利用者の属性 ・アンケート調査の回答者442人の居住地は、亀山市が3割弱、鈴鹿市・津市・四日市市からそれぞれ1割前後、愛知県などの県外からの利用者も3割程度を占める。 (2) 利用満足度 ・「亀山サンシャインパークにまた来たいか」との問いに、利用実態調査では90%近くが「はい」と回答。 ・施設別では、「遊歩道」「芝生広場」「オアシス館」の満足度が比較的高い。 (3) 公園についての意見、要望(多いもの) ・案内サインを増やしてほしい、もっと公園についてPRをしてほしい。 ・駐車場が少ない(土日に混雑)。など</p>	<p>(1) 事後評価のまとめ ・費用対効果分析、観光振興、長寿・福祉社会対応、利用者数推移などを踏まえ、事業の効果は発現されてきている。 (2) 今後の事後評価の必要性 ・まとまった施設の改修や更新の際には、利用状況に見合った事業投資となっているかどうか検証する必要がある。 (3) 改善措置の必要性 ・案内サイン、公園のPRや、施設改善等が求められている。</p>	
					H16	4,651						

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初					
						最終	最終					
都市公園事業	506	大仏山公園	伊勢市・明和町・玉城町	【全体事業概要】 整備面積37.2ha	S55	H16	6,472	(1)費用対効果分析結果 B/C=2.65  (2)観光振興等地域活性化に関する効果 ・年2回開催されるフェスティバルの開催が定着しており、月別来園者数は開催月が最も多い。 ・オリエンテーリングコースが設置されており、各種団体に利用され、平成20年には大会が開催された。 ・地元環境団体による自然体験・自然調査などの活動、地元学校による遠足や学習の場、各種団体による大会会場などにも利用されている。	古墳・埋蔵文化財等の保全 ・大学等による調査、研究が行われ、古墳群遺跡から出土した遺物は保管され、文化財の保全が図られている。	(1)上位計画との整合 ・伊勢都市計画区域MPにおいては、住民及び来訪者のふれあいの場として整備するとされており、当公園整備の方向性と一致している。  (2)周辺施設の状況 ・隣接する大仏山公園スポーツセンターが平成7年に開園し、運動レクリエーションの拠点が形成された。  (3)社会状況、住民ニーズへの対応 ・環境への視点も重要となる中で、従来の里山を活かした整備とするなど、社会経済情勢や住民ニーズへの対応を行っている。	(1)来訪者属性 ・アンケート調査の回答者507人の居住地は、伊勢市が5割、明和町が2割、玉城町及び松阪市がそれぞれ1割弱を占め、来訪頻度が月に2回以上の来訪者が5割以上となっており、地域に身近な公園となっている。  (2)利用者の満足度 ・自然、くつろぎ、安全の評価が高く、回答者の約96%が再来園の意向を示している。 ・施設別では、大型遊具や中央広場、子供広場、芝生広場における満足度が最も高くなっている。 ・遊具や公園までの案内については、1割の方が不満に感じている。  (3)公園についての意見・要望 ・遊具・休憩施設や木陰の追加改善、・ゴミ箱の設置、・植栽管理改善(剪定・除草)、・利用者マナー改善など	(1)事後評価のまとめ ・費用対効果分析のほか、観光振興、長寿・福祉社会、自然共生など、事業効果が発揮されている。  (2)今後の事業評価の必要性 ・大規模な施設改修及び新たな施設導入などの際には、利用状況に見合った事業投資となっているかどうか検証する必要がある。  (3)改善措置の必要性 ・遊具、休憩施設の追加やゴミ箱設置などハード整備の他、植栽管理や利用者のマナー向上が求められている。
				(1)中南勢地域の核となる広域的なレクリエーションの場の提供  (2)水と緑に囲まれたスポーツレクリエーションゾーンの形成  (3)自然と古墳群を活かした公園整備		H16	6,472	(3)長寿・福祉社会への対応に関する効果 ・園内の主要施設、主要園路については、高齢者や車いす等に対応するため段差解消、スロープ化しており、50歳以上の利用が半数近くを占めている。				